

三原市久井歴史民俗資料館 vol.48

モーモー通信



ひろしまけん きょうどが ぐ 広島県の郷土玩具

郷土玩具とは、江戸時代後期から全国で作られ始めた、地域の生活文化が色濃くみられるおもちゃです。地域の産物を使ったり、四季折々の年中行事に結びつけたり、子どもたちを喜ばせ受け継がれてきました。広島県の郷土玩具の特色として、南部は瀬戸内のあたたかい風土が育んだ楽しいもの、北部は習慣や天神(天候をつかさどる神様)信仰にちなんだものが多くみられます。今回は、資料館が所蔵する県内の郷土玩具をご紹介します。



モーモー館長

→は、尾道市でつくられる「田面船」だモー。
備後地方では、古くから旧8月1日を八朔の田面の節句として、田面祭りが行われ豊作を祈っていました。田面とは、頼みと田の実がなまった方言で、豊作と子どもの成長を願うことを意味します。



北部に米所をひかえ、米の運搬の港をもつ尾道では、積み船をかたどった田面船が、田面の節句に初誕生日を迎える男の子におくられました。柄杓や神棚職人が制作し、子どもが大きくなると、ひもで引いて遊んだモー。



ぶんぶず 広島県の主な郷土玩具分布図



【宮島の鹿猿】

江戸時代後期からあったといわれる日本三景「安芸の宮島」の参詣土産です。昔、宮島は鹿千匹、猿千匹といわれ、たくさんの鹿と猿がいました。粘土を手びねりにして作り、何度も途絶えながらも今でも作られています。



けん玉名人



【常石張子】

福山市沼隈町常石で作られている人形です。明治時代中期、初代宮本久平が土人形の制作を始めましたが、壊れやすいため、後に張子に変えたといわれています。張子は、一般的に型の外側に紙を貼りつけ、乾燥後中から型を取りだしますが、常石張子は、土人形の型を使っているのが特徴で、型の内側に紙を貼りつけ乾燥後、前後の型を合わせます。



乾燥後中から型を取りだしますが、常石張子は、土人形の型を使っているのが特徴で、型の内側に紙を貼りつけ乾燥後、前後の型を合わせます。

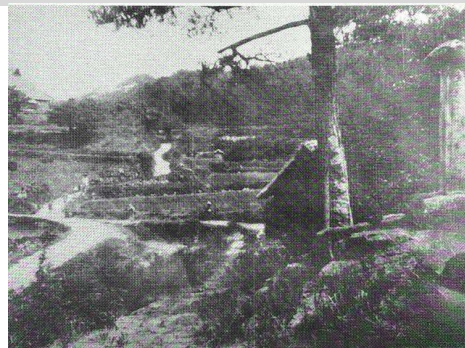
久井八景8 和歌に登場する、久井の美しい景色を紹介

一松時雨

野も山も晴るばかりの朝風に
松の一と木の影ぞしぐるる

*時雨…にわか雨

一松とは、今はありませんが、昔、久井町下津三ツ橋から津蟹へ越す山の上に立っていた一本松のことです。三ツ橋は、かつて石橋が三



下津三ツ橋 大正時代

本かかっていたのでこの名があり、江戸時代には三次藩主の参勤交代の通路でした。その一本松は休憩所や目印とされており、現在久井町にある市道「三ツ橋線」「一本松線」の名は、そのゆかりではないかと思われます。

つづきは資料館で ...

〒722-1303

三原市久井町下津 1397

三原市久井歴史民俗資料館

TEL・FAX 0847-32-7139

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日休館)、年末年始

アクセス 中国バス久井中停留所下車

ごあんない図

